学校番号	414

令和８年度　公民科

教科	公民科	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「新倫理」　（清水出版）						
副教材等	高等学校　新倫理　ワークノート　（清水出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・青年期の課題に対して、自ら考え、その考えをまとめて表現する活動を行います。
・受け身ではなく、自らの課題として実践的に解決への過程をたどって行くことを求めます。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
【思考力、判断力、表現力等】
現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
【学びに向かう力、人間性等】
広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第1編　現代を生きる自己の課題	序章 人間とは何か 第１章 個性的な主体としての自己 １　心の機能と個性 ２　パーソナリティの形成と「私」 第２章 心と行動をめぐる探究 １　人間の活動を支える心 ２　認知のしくみ ３　生涯にわたる発達	a：生きることの意味についていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につけている。 b：青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解し、考察している。 c：自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかについて、主体的に追究、理解しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
	第2編　人間としての自覚	第１章 哲学の始源：ギリシア思想 １　神話から哲学へ ―自然哲学者たち ２　知と徳をめぐる問い ―ソクラテス ３　理想主義的なあり方 ―プラトン ４　現実主義的なあり方 ―アリストテレス ５　幸福をめぐる問い ―ヘレニズムの思想	a：古代ギリシアの先哲が論じた人間観や人生観を、原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 b：古代ギリシアの思想の知見を用いて、人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c：人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

		第２章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第１節　愛の教え ―キリスト教 １　ユダヤ教 ２　イエスの思想 ３　世界宗教への展開 第２節　戒律と平等の教え ―イスラーム教	a：ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の倫理に関する諸概念を、原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 b：イエスの言行やパウロの言葉、古代・中世のキリスト教神学の知見を用いて、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c：宗教における倫理に関する諸概念の学習を通して、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
		第３章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第１節　智恵と慈悲の教え ―仏教 １　バラモン教 ２　仏陀の思想 ３　仏教とその後の展開 第２節　仁と礼の教え ―儒教 １　儒家の教え ２　儒教の展開 ３　道家の思想	a：仏教、儒教、道家の思想の倫理に関する諸概念を、原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 b：『論語』『孟子』など原典資料の読解を通して、人間としてのよりよい生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。また、性善説や性悪説といった対立する視点から現代の様々な課題を考察する。 c：仏教や儒教における倫理に関する諸概念の学習を通して、人間について深い洞察をおこない、また共感的理解の重要性について理解しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
		第４章　芸術と倫理	a：作品の特徴や作品の社会背景などから、芸術家が作品に込めた問いや思想などを読み解くことができる。 b：芸術作品を通して、人間としての在り方生き方について思索を深め、適切に表現できる。 c：美を求める心が人生を豊かにするものであることを理解し、美の概念を自らの生き方と関わらせて主体的に追究しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

	第３編　現代をかたちづくる倫理	第１章 近代の成立	a：合理化や進歩、進化といった近代の特徴を示す概念を説明できる。 b：合理化や進歩、進化といった近代の特徴を示す概念を通して、現代の倫理的課題を自己の課題として多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 c：人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、近代の人間観や世界観を通して主体的に追究しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
		第２章 世界と人間をめぐる探究 第１節　人間の尊厳 １　ルネサンスとヒューマニズム ２　宗教改革と人間の内面 ３　人間の偉大と限界	a：ルネサンスや宗教改革、モラリストの思想家らの人間観に関する基本的な知識を身に付けている。ルネサンス期の絵画や造形作品を通して、近代の人間像を読み取ることができる。『エセー』・『パンセ』などの原典資料から、人生の意味や価値を適切に読み取ることができる。 b：ルネサンスや宗教改革、モラリストの思想家らの様々な人間の見方や人生の捉え方を通して、人間としての在り方生き方について思索を深め、適切に表現できる。 c：人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、自己の人生観や人間観と結び付けて主体的に追究しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
二学期		第２節　真理の認識 ―経験論と合理論 １　近代科学の思考法 ２　事実と経験の尊重 ―ベーコン ３　理性の光―デカルト	a：近代科学の思考法、ベーコンの経験論やデカルトの合理論に関する基本的な知識を身に付けている。それらの思想家の原典資料を適切に読み取ることができる。 b：近代科学の思考法、経験論と合理論の真理観や世界観を通して、現代の科学技術の在り方や、人間がよりよく生きていくために何が重要かについて思索を深め、適切に表現できる。 c：真理や存在について、自己の生き方や自然と人間との関係に結び付けて考察しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

		第３節　民主社会と倫理 １　社会契約説と啓蒙思想 ２　人格の尊厳と自由 ―カント ３　自己実現と自由 ―ヘーゲル ４　幸福と功利 ５　創造的知性と幸福	a：ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説、ヴォルテール、モンテスキューら啓蒙思想家、カントやヘーゲルのドイツ観念論、ベンサムやミルの功利主義、パースやジェームズ、デューイのプラグマティズムの基本的な知識を身に付けている。それらの思想家の原典資料を適切に読み取ることができる。 b：社会契約の思想、啓蒙思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想、社会の発展に関する思想を通して、民主社会と個人の関係、個人と国家や法との関係について考察し、民主社会の発展のために何をすればよいかという思索を深め、適切に表現できる。 c：個人と社会全体の幸福について思索し、民主社会の発展のために何をすればよいか考察しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
		第４節　現代社会と個人 １　資本主義社会への批判 ２　人間存在の地平 ―実存主義 ３　世界と存在そのものへ―現象学 ４　公共性と正義 ５　社会参加と他者への奉仕	a：社会主義の思想、キルケゴール、ニーチェ、ヤスパースの実存主義、フッサール、ハイデガー、サルトル、メルロ－ポンティ、レヴィナスらの現象学、レーヴィッド、アーレント、フランクフルト学派、ロールズ、ノージック、サンデルら政治哲学の基本的な知識を身に付けている。社会参加と生きがいの関わりを、先人の事例から読み取ることができる。それらの思想家を論じた現代の著作から現代の諸課題を適切に読み取ることができる。 b：社会主義、実存主義、現象学、現代の政治哲学、社会貢献の具体的な事例を通して、社会と人間の在り方や世界と人間の在り方を考察し、よりよく生きていくために何が重要かについて思索を深め、適切に表現できる。 c：自らが社会を形成する主体であることを自覚し、自己や社会全体の幸福の実現に積極的に参加しようとする態度を身につけようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

		第５節　近代の世界観・人間観の問いなおし 1　理性主義への反省 2　言語論的転回 3　科学観の転換	a: ベルクソン、フロイト、ユング、レヴィ - ストロース、フーコー、ドゥルーズ、デリダ、ウィトゲンシュタイン、ポパー、クワイン、クーンら思想家の基本的な知識を身に付けている。 b: 近代の世界観・人間観を問い直した現代の諸思想を通して、世界を捉える知の在り方が時代とともに変容しうることを考察し、人間としての在り方生き方をより広い視野から多面的・多角的に思索し、適切に表現できる。 c: 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について、自己の人生観や人間観と結び付けて主体的に追究しようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
	第４編　国際社会に生きる日本人としての自覚	第１章 日本の風土と精神文化 第１節　日本人の人間観・自然観・宗教観 1　風土と日本人の生活 2　日本における神の観念 3　神と仏の出会い	a: 原始神道に見られる人間と自然との関わりについての意識、日本人の死生観、善悪についての道徳観、自然への感じ方を、原典資料や芸術作品を通して、適切に読み取り、理解することができる。 b: 古代の日本人の考え方を手掛かりとして、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 c: 日本人としての在り方生き方についての根源的な問いを探究することで、国際社会に生きる日本人として主体的に生きていくために必要な能力を身に付けようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

		第２節　日本人の仏教受容 １　古代仏教の思想 ２　鎌倉仏教の思想	a：日本における仏教の受容とその展開を、古代から鎌倉時代の仏教者を通して、適切に理解し説明することができる。 b：日本独自の仏教の受容やその思想が今日の日本人の考え方にどのような影響を及ぼしているのかを手掛かりに、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 c：日本の思想、文化と伝統などが外来の思想や文化を受容しながら形成されたことを学習することを通して、他の文化や伝統を尊重する態度を身に付けようとしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
		第３節　近世社会の思想 １　儒教の伝来と朱子学 ２　陽明学 ３　古学 ４　国学と日本文化 ５　近世庶民の思想 ６　近代的国家への道	a：日本の伝統思想について、儒教などの外来思想の受容や国学による古代の精神の究明などを通して、適切に理解し説明することができる。 b：儒教や国学、近世庶民の思想など様々な角度から日本人の人間観、自然観、宗教観を考察することを通して、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 c：日本の先哲の学習を通して、国際社会に生きる日本人としての自覚を深めるとともに、課題を追究したり解決に向けて構想したりしている。	発問評価 小テスト 定期考査	発問評価 提出課題 ペアワーク 定期考査	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

三学期		第２章 日本の近代化と人々の生き方 第１節　西洋近代精神の摂取 １　啓蒙思想家の活動 ２　国家と個人の衝突 第２節　近代的個人の自覚 １　近代的自我の成立と個人主義 ２　社会改革の思想 第３節　主体的な生き方と価値観の模索 １　近代日本の哲学者 ２　近代日本の思想傾向への反省 ３　現代日本と私たちの課題	a：西洋文化を摂取し新しい文化や思想を形成した思想家の基本的な知識を、原典資料を適切に読み取り、説明することができる。 b：西洋の思想や文化を受容する際の課題意識を自己の課題と結び付けて考える視点を働かせることを通して、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 c：国際社会における日本人としての在り方生き方の自覚を深めることで、日本人として主体的に生きていくために必要な能力を身に付けようとしている。	発問評価 小テスト	発問評価 提出課題 ペアワーク	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容
	第５編　現代における諸課題の探究	第１章 自然や科学技術をめぐる諸課題 １　環境と倫理 ２　生命と倫理 ３　科学技術の発展とその課題	a：自然や科学技術との関わりにおける倫理的課題に対して、その解決に向けて、これまでの学習を通して身に付けた倫理に関する概念や理論を適切に活用できる。 b：生命、自然、科学技術などと人間との関わりについての倫理的課題を見いだし、生きることの意義、自然との調和的な共存関係、先端科学技術の利用と人間生活や社会の在り方に着目して、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できる。 c：生命、自然、科学技術などと人間との関わりについての倫理的課題の探究を通して、多様な他者との対話を通して、人格の完成に向けて自己の生き方を確立しようとしている。	発問評価 小テスト	発問評価 提出課題 ペアワーク	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

		第２章 社会や文化にかかわる諸課題 １　文化や宗教の多様性と倫理 ２　国際平和と人類の福祉	a: 様々な他者との協働、共生に向けた倫理的課題に対して、その解決に向けて、これまでの学習を通して身に付けた倫理に関する概念や理論を適切に活用できる。 b: 福祉、文化と宗教、平和などについての倫理的課題を見いだし、協働、ケア、共生、異文化理解、人類全体の福祉などに着目して、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できる。 c: 福祉、文化と宗教、平和などについての倫理的課題の探究を通して、多様な他者との対話を通して、他者と共に生きる主体として自己を確立しようとしている。	発問評価 小テスト	発問評価 提出課題 ペアワーク	授業態度 発問評価 ワークノートの記述内容

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度